

事業所名	グループホームいよしの家福吉町 (クリックすると事業者の情報にリンクします)
日付	平成17年2月10日
評価機関名	㈱東京リーガルマインド (クリックすると評価機関の情報にリンクします)
評価調査員	A:現職 介護支援専門員 資格・経験 介護支援専門員歴3年、看護師歴37年以上 B:現職 居宅介護支援事業所介護支援専門員 資格・経験 介護支援専門員、介護福祉士、特別養護老人ホーム介護員歴10年
自主評価結果を見る	(事業者の自主評価結果にリンクします)
評価項目の内容を見る	(評価項目にリンクします)
事業者のコメントを見る(改善状況のコメントがあります!)	(事業者情報のうち評価結果に対する事業者コメントにリンクします)

外部評価の結果

調評
全体を通して特に良いと思われる点など(記述)
<p>1) 住宅地に囲まれ、すぐ隣には日当たりのいい公園がある。そこは、春には桜が咲き入居者にとって毎日の散歩や近隣の人との交流の場になっている。ホームの庭はよく手入れがされ、花や野菜が生き生きと育っていて心が和む環境である。高齢者の身体的状況や生活パターンをよく理解したホームの設計で、設備も整っている(玄関前のスロープ、居間から続くウッドデッキ、エレベーター、床暖房のある浴室など)。</p> <p>2) 個人を尊重して自然な日常生活が送れるよう支援しながら、職員もタイムスケジュールに追われることなく、入居者一人一人に寄り添い、残存能力をうまく引き出すような援助がされている。手伝ってもらったら、「ありがとう、助かったわ」と職員全員でお礼を言うことを徹底し、入居者がそれぞれ自信を持って過ごせるようによりよく自立支援がなされていた。</p> <p>3) 入居者の生活に対する興味や選択の機会を増やすため積極的に外出を行い、社会からの疎外感をなくす努力がなされている。隣の公園内に町内の集会所があり、その利点も生かして婦人会の踊りや銭太鼓の披露がホームでされるなど地域との交流も自然に育まれている。</p> <p>4) 提携医療機関としての「青木内科小児科」への定期的受診、「あいの里クリニック」からの歯科の往診、緊急時には労災病院を受診するなど、普段の健康管理から緊急時の対応まで医療との連携がとれている。</p> <p>5) なお、生活保護の方も受け入れていて、家賃も低めに設定されている。自立支援の成果で、入居中に要支援や自立になる方もおられ、その場合も身寄りのない方には次の受け入れ先としての施設をお世話するなど、退所後の生活にも気を配っていた。</p>
特に改善の余地があると思われる点(記述)
特になし

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有	○	
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か (記述) 1) 「基本的人権の保護」、「家庭的な生活」、「生きがいのある生活」が基本理念である。 2) 中でも[これからの人生をゆっくり、ゆったり、歩んでいって欲しい]を合言葉に、家庭的な生活が送れることを最も大切にしている。職員の都合で規制することなく、可能な限りその人に合った生活のパターン、その人のペースを守ることを重視し、入居者が家庭の延長線と安心して過ごせるように配慮している。 3) 生きがいのある生活が送れるよう外出しやすい雰囲気作りをしていた。入居者の趣味や生活歴を把握し、残存能力を活かして日常の生活の中で家事や手伝いが自然にできるように援助している。できること、できたことに対して「ありがとう、助かったわ。」と褒めたりお礼を言ったりすることで、「自立支援」を促すことをサービスの基本としている。入居時には下肢の力が弱って何もする意欲がなかった方が、今は自分の部屋だけでなく、廊下や居間を掃除したり、畑仕事に精を出しておられた。また他の入居者が歩行器から椅子に座るのを援助されたりして、「他の人のためになることを」と生き生きと動いている男性の姿を目にすることができた。		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り	○	
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり	○	
4	建物の外回りや空間の活用	○	
5	場所間違い等の防止策	○	
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か (記述) 1) 入居者各々が自分のしたいことをして、自由に時間が流れていた。入居者の表情に満足そうな感じが見られるのは、職員に合わせた時間単位で生活をするのではなく、個人に合った生活のリズムを大切に、できるだけ今までの生活スタイルを続けられるよう、一人ひとりのペースに合わせた温かい見守りのケアによると思われる。 2) 座ったまま身体を優しく洗い流してくれる全身シャワー、底に滑り止めを敷いた浴槽、居間からと浴室の2方向から入れるトイレの設置、トイレにはセンサーライトがある。メインリビングに隣接した畳スペースには暖炉があり、自由にくつろいだり、時には踊りや銭太鼓の舞台にしたりと活躍している。居間から続くウッドデッキを降りると広い庭、そこにある菜園など、随所に高齢者の心身の機能を配慮した環境と設備がある。		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映	○	
7	個別の記録	○	
8	確実な申し送り・情報伝達	○	
9	チームケアのための会議	○	
10	入居者一人ひとりの尊重	○	
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ	○	
12	入居者のペースの尊重	○	
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援	○	
14	一人で行えることへの配慮	○	
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫	○	
16	食事を楽しむことのできる支援	○	

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援	○	
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮	○	
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援	○	
20	プライドを大切にした整容の支援	○	
21	安眠の支援	○	
22	金銭管理と買い物の支援	○	
23	痴呆の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保	○	
24	身体機能の維持	○	
25	トラブルへの対応	○	
26	口腔内の清潔保持	○	
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応	○	
28	服薬の支援	○	
29	ホームに閉じこもらない生活の支援	○	
30	家族の訪問支援	○	
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か(記述) 1) 入居者の生活歴・職歴・趣味を把握し、これまでの人生経験を尊重しながら、現在に生かせる趣味ややりたいことは何かを見つけて、意欲や希望の表出につなげている。リュウマチで手が不自由でも昔から好きだったちぎり絵で誕生会やお正月の飾り絵に取り組みされている方や、自分の嫌を持ち込んで畑仕事を楽しむ方の姿が見られた。 2) 生活をこなす中でそれぞれの残された力を大切に、一人ひとりが何らかの役割をもって暮らせるよう配慮している。出来たことに対して褒めたりお礼を言ったりすることで意欲になり、洗濯物をたたんだり、掃除したり、調理の下準備や後片付けを手伝ったりと、日常の中で喜びを見つけていた。 3) 職員は、基本的事項として入居者のプライバシーは責任を持って守るということを誓約している。また個人の尊厳を守ることをスタッフ全員が、ケアサービスを提供する上で一番重視している項目として年頭に置いて、どんな場面でもプライドを保てるよう、さりげない介護に心掛けている。		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映	○	
32	家族の意見や要望を引き出す働きかけ	○	
33	家族への日常の様子に関する情報提供	○	
34	地域との連携と交流促進	○	
35	ホーム機能の地域への還元	○	
記述項目	サービスの質の向上に向け日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か(記述) 1) 入居者の個人記録は、家族が希望すれば情報開示する事にしており、面会時必ず読まれて日常の様子を知ろうとされる家族がある。第三者から見ても日頃の状況が読み取れる記録で、職員・家族が協力して問題点の気づきに努めている。入居者の状態の安定・向上について関心が高い。 2) 自立を目指す方向で援助することが良い結果をもたらすことを職員全員の励みとしている。褒めながら自立への意欲を高めることにより要介護の状態が軽くなっていくケースがみられる。 3) 全員が有資格者であるが、採用後1ヶ月以内の研修(薬剤・痴呆の理解と対応、介護など)とその後の研修(グループホーム協会や社協主催)を通して、継続的に職員を教育し自己研鑽に努めている。なおニチイ学館や日本医療事務センターのヘルパー研修も受け入れており、意欲や技術の向上に熱心である。 4) トラブル発生を繰り返さないために、事故は軽いものでもインシデントレポートに記録し、ケースの振り返りから再発防止への対策を、職員全体で検討している。今のところ重大な事故は発生していない。		